

平成 29 年度第 2 回 栗東市立図書館協議会

- 開催日時 平成 29 年 10 月 21 日（土）10：00～12：00
- 開催場所 栗東市立図書館 会議室
- 出席者 石田勝 井之口哲也 大屋邦代 小幡庫士 佐々木元秀 澤絢子
高岡正秀 宗本和子
- 事務局 図書館副館長 館長補佐
- 欠席者 2 人
- 傍聴者 0 人

概要

1.あいさつ

会長あいさつ

2.協議事項

- ① 平成 28 年度事業報告について
- ② 平成 29 年度進捗状況について
- ③ 栗東市立栗東西図書館の今後のあり方について
- ④ その他

3.閉会

副会長あいさつ

開会

会長あいさつ

インターネットのロコミサイトに図書館のサービスについて投稿されていたので紹介しておきたい。

「栗東図書館は展示、本の紹介について力を入れていて良いが、歴史、思想などで思想に偏りがある。また、予約の受付をおこなっていないが、貸出サービスは 7 冊 2 週間で大変助かるとのこと。」職員さんについては、収集方針に基づき公正公平に収集を行っていただいていることですし、事実誤認もありますが、このような内容のものが紹介されていたのをお伝えしておきたい。

本日もいくつかの議題が上がっているが、活発なご意見を頂戴したい。

議事

①平成 28 年度事業報告について

（事務局）栗東市立図書館活動報告に沿って説明

（委員）障がい者サービスの中で新たに開始された郵送サービスがあったと思うが経費についてはどこから用意されているのか。

（事務局）予算化している。

（委員）今後増えていくことが予想されるが、実費徴収はできないのか。

（事務局）図書館法の無料の原則に基づき貸出に関しては無料としているが、今後検討していく必要はあると考える。他館の状況等確認していきたい。

（委員）貸出冊数推移をみると下降していることがわかるが、特に西館については減少著しい。こ

れについての原因はどのようにお考えか。

(事務局) 平成 23 年度から基本的に本館で資料を収集していくことに変更した。

西館は新刊ではなく一旦本館に入った本を廻すことで蔵書を構成しており、このことが利用減の一因であるとする。今後も現状の予算のなかでは西館の本の充足は難しいが、出来る限り利用状況にあわせた資料収集を行っていく。

(委員) 新規登録者数は 1946 人であるが、全登録人数は何人か。

(事務局) 平成 28 年度末累計登録人数は 59,198 人

(委員) 22 名の方がボランティア講座を受講されたが、現在の活動人数は何人か。

(事務局) 19 名の方がボランティアに参加していただいている。

(委員) 文庫連絡会の一覧に昨年度までは大橋文庫があったがやめられたのか。

(事務局) 大橋文庫は子ども会が文庫の運営をされていたが、子ども会の活動が無くなったとのことで、残念ながら文庫の活動も停止されている。

②平成 29 年度の進捗状況について

(事務局) 平成 29 年度の進捗状況について説明

(委員) 市内小学校一年生対象のお話し会を実施していただいていることをありがたく思っている。図書館案内も兼ねて実施されているので、この時期(5月、6月)だともうが、回数を増やすことは可能か。

(事務局) 以前より学校からの要望も多く出来るだけ実施したいと思うが、職員体制が難しい状況ではあるが、検討していきたい。

(委員) ボランティアはシニア世代に限定されているのか

(事務局) 時間のゆとりのあるシニア世代に参加していただければとの考えから事業を実施したが募集するに当たり年齢の制限は設けていない。

(委員) 中学生の職場体験の子どもたちと話をしていると、図書館で職場体験したいという声を聞く。図書館で働いてみたいと思っている中学生が多いと思われるので、図書館で若い世代のボランティア参加を実施してはどうか。

(事務局) 中高生は図書館利用が少なくなる世代なので、くりちゃんブック大賞などの行事を通じて図書館利用を促している。少しでも図書館利用につながるような事業を実施していきたい。

(委員) ボランティアの方たちより図書館ボランティアに参加して、良かった事などの意見は聞いているのか。

(事務局) ボランティアに参加していただくために、基本的な図書分類や修理技術の研修を受けて頂いたが、皆さん大変熱心に取り組んでくださった。

8月に葉山中学校の図書館整理ボランティアにも多くの方に参加いただき、やりがいを感じていただいていると考えている。

③栗東西図書館の今後のあり方について

(事務局) 栗東西図書館の今後のあり方について説明。

(委員) 説明頂いた取組みで、西館の貸出冊数が増えると考えておられるのか。

(事務局) 全国的に図書館の貸出冊数は減少傾向にある。インターネットが普及して本離れが益々増える中で貸出冊数の増加は難しいと考える。

しかし今の時代だからこそ、どのように市民に本を手渡していくかを考えていく必要がある。

(委員) 湖南 3 市の貸出制限冊数は何冊か

(事務局) 3 市共、15 冊。

(委員) 以前の貸出冊数 15 冊に戻すことは職員の体制により難しいと思うが、図書館は貸出冊数だけではないとお考えなら図書館としての有り方を示していく必要があるのではないか。

(事務局) 子どもへの読書支援のひとつとして学校図書館の整備をおこなっているが、その結果として子どもたちが本に出会い貸出冊数が増えるのは望ましいと考える。

予算が限られている中で、どこに重きを置くか考えていきたい。

(委員) 少子高齢化でもあるので、シニア層の利用促進を考えていく必要があるのではないか。

(委員) 高齢になると本が読みにくくなる。また文庫も子どもたちの利用が減っている。子どもたちの様子をみていると、身近に本があったら読むのではと感じている。

(委員) 図書館以外の施設でも行事の参加は減っているのか。

(事務局) どこでも人が集まりにくくなっている状況と聞いている。

(委員) 高齢化社会の到来により、高齢者の居場所としての図書館の位置付けは大きい。ただ視力の低下もあり読める本も限られてくる。本は若いときに読まないといけないと伝えている。

(委員) スマホ育児が問題になっている。人とのふれあいが一番大切な時のスマホ育児に危機感を感じている。西館の今後のあり方にあげていただいている子育て支援及び子供読書環境の推進にどうか取り組んでほしい。

(会長) 議題についてすべてご説明していただいた。他に意見はありませんか。

(委員) 9 月から延滞者への利用制限を開始されたが、どのような状況になっているのか。

(事務局) 今までと違ってペナルティが発生するとなると少し意識が変わるようで、延滞の抑制の効果が出ていると感じている。

(事務局) その他、今回の資料としてお渡しさせていただいた「栗東市立図書館資料収集方針」「レファレンス報告」「正置友子講演会」「図書館関連新聞等記事」をあとでご覧頂きたい。

(委員) 市役所広報係の管轄で音訳他のボランティアが年 1 回集まっている。図書館からも会議に参加していただくと情報交換の場になるのではないか。

(事務局) 広報課に確認する。

(副会長) 長時間のご協議、ご苦労さまでした。みなさんお身体に気をつけてください。

(事務局) 多くのご意見を頂き、ありがとうございました。早急に対応出来る事案、検討する事案それぞれについて対応していく。

皆様においてはこの 31 日にて委員会任期が満了となる。この間、基本的運営方針についてご意見を頂き、後に議会の賛同を得て 7 月 1 日より施行している。特に西館のあり方については取組んでいきたい。中身の濃い 2 年間であったことを感謝している。

今後継続して委員をお願いさせて頂くみなさまには、引き続きご意見を頂きより良い図書館活動を目指していきたい。

また、今回の任期満了でご退任頂く委員の皆様については、長期間にありがとうございました。